

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：小澤 諒

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は33経営体であった。

2 県内の生産量

平成30年の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵		計
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		全雌2倍体	全雌3倍体	
ニジマス		500	230	542.3	1272.3		26.6	26.6
ヤマメ		4.3	30	185.5	219.8			
イワナ				283	283			
アマゴ				114	114			
ヒメマス			15	3.8	18.8			
ブラウントラウト	3.1		2.2		5.3			
カワマス				2	2			
アメマス				1.6	1.6			
スチールヘッド				2	2			
サクラマス			11.5		11.5			
オショロコマ				1.8	1.8			
カットスロート	1.3				1.3			
イトウ	0.6	0.05			0.65			

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	870
ヤマメ	150.2
イワナ	143
アマゴ	78.5
ヒメマス	27.15
ブラウントラウト	5
カワマス	1
スチールヘッド	2
サクラマス	2.16
イトウ	0.06

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	10.7
ヤマメ	15.5
イワナ	15.8
アマゴ	38.5
ヒメマス	38.8
ブラウントラウト	0.1

表4 埋没放流用出荷卵数 単位（万粒）

魚種名	年間放流数
ヤマメ	8.5
イワナ	19.5

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	21	6(28.6)
ヤマメ	16	10(62.5)
イワナ	14	10(71.4)
アマゴ	9	6(66.7)
ヒメマス	5	2(40)
ブラウントラウト	3	2(66.7)
サクラマス	3	1(33.3)
カワマス	1	1(100)
アメマス	1	1(100)
スチールヘッド	1	1(100)
オショロコマ	1	1(100)
カットスロート	1	1(100)
イトウ	2	1(50)

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化 (ニジマス)

平成30年の種卵生産量は前年比17.3万粒（1.4%）増の1,272.3万粒、種苗生産量は前年比36.1万尾（4.0%）減の870万尾であった。

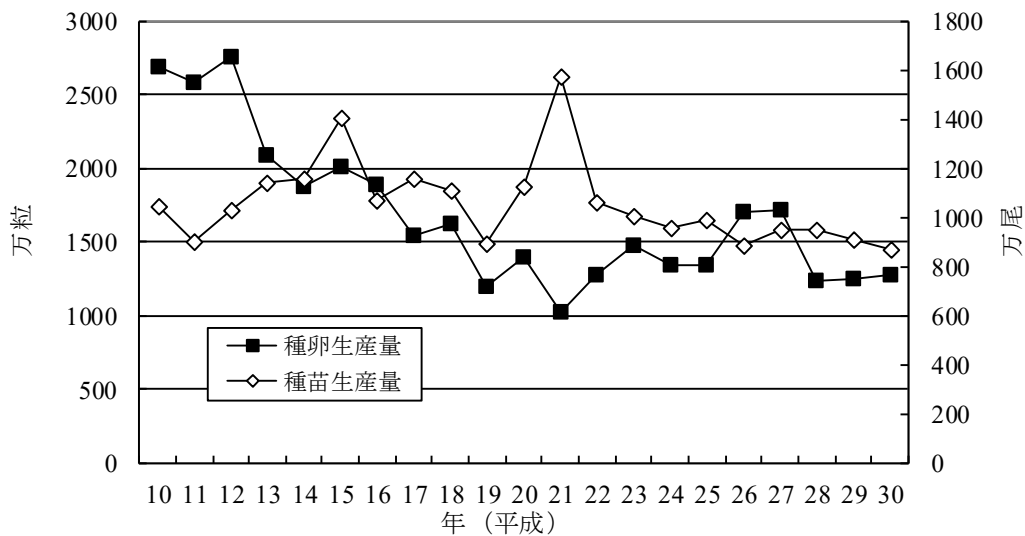


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

平成 30 年の種卵生産量は前年比 27.8 万粒 (14.5%) 増の 219.8 万粒, 種苗生産量は前年比 9.3 万尾 (5.8%) 減の 150.2 万尾であった。

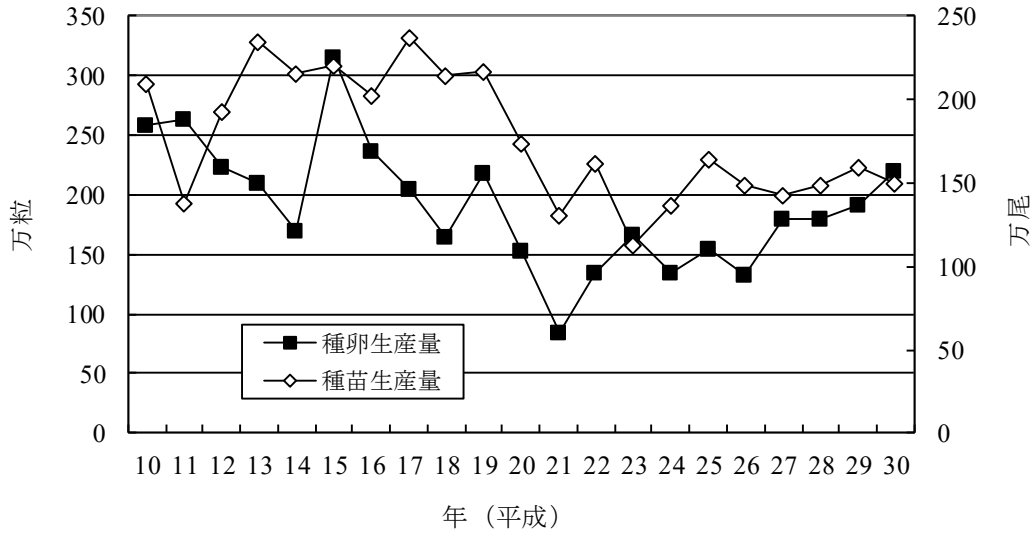


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

平成 30 年の種卵生産量は前年比 4 万粒 (3.6%) 増の 114 万粒, 種苗生産量は前年比 9 万尾 (12.9%) 増の 78.5 万尾であった。

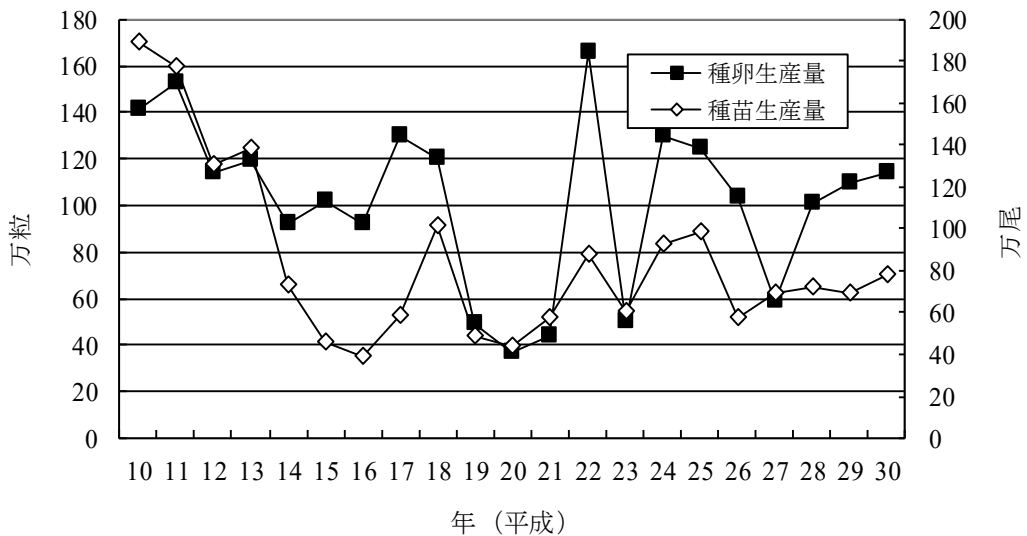


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

平成 30 年の種卵生産量は前年比 6 万粒 (2.1%) 減の 283 万粒, 種苗生産量は前年比 50.7 万尾 (54.9%) 増の 143 万尾であった。

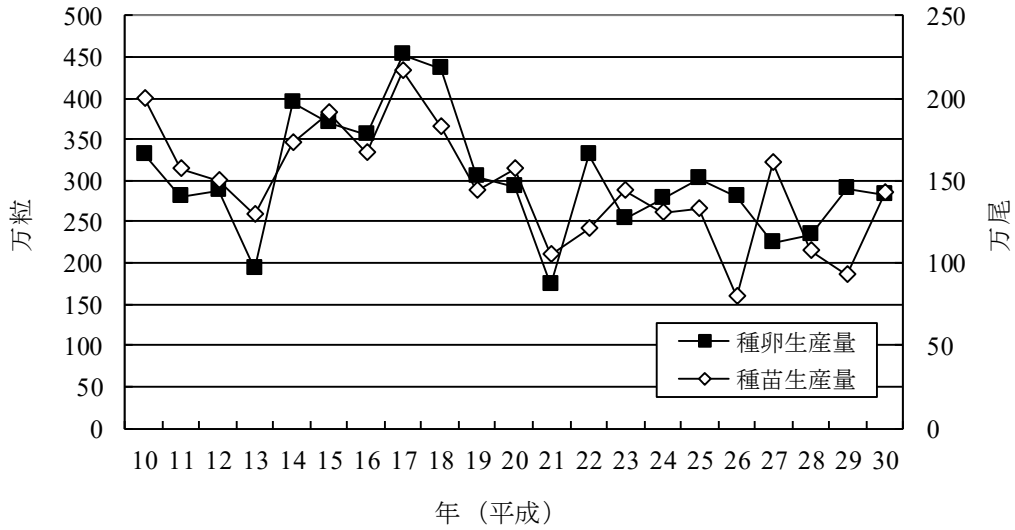


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化